



第 19 回

浜 松 市 芸 術 祭

演 劇 部 門

第十九回

浜松市芸術祭

演劇部門

効	小	舞	照	演	○	チ	ズ	コ	○
道	台	台	明	出	キ	ャ	リ	ソ	ャ
果	装	置	出	出	ャ	ン	リ	ン	スト
.....
大	北	前	西	杉	前	青	野	世	世
谷	沢	島	田	浦	島	木	末	田	田
具	妙	洋	一	豊	功	邦	一	辰	辰
代	子	彰	一	豊	功	久	行	仁	仁

薔薇のベビイ

大和雪彦 作

引佐町青年学級
演劇サークル

それぞれ個性の違った三人の泥棒達が共同生活をしていた。
ある日、一人の泥棒が生まれたばかりの子供を拾って来た。
むろん、子供を育てたことのない三人は困ってしまったが、しかたなく育てることになった。
三人の泥棒は、そして子供は？

と き 48・11・25(日)
と ころ 浜松市民会館ホール
主 催 浜松市教育委員会
主 管 浜松社会人演劇連盟

上 演 時 間

- 10・00~11・10 引佐町青年学級演劇サークル
「薔薇のベビイ」
- 11・30~12・10 雅 座「国定忠治」
- 12・30~13・30 '73カリギュラ「Love Flower Angels」
- 13・50~14・35 劇団季節「瓜子姫とアマンジャク」
- 14・55~16・05 演劇サークルあし「黄色いパラソルと
黒いコーモリ傘」
- 16・25~17・35 浜松放送劇団「冬の雷」
- 17・55~18・40 劇団からっかぜ「花 刀」
- 19・00~20・10 サークル鬼の村「薔薇のベビイ」



国定忠治

行友李風 作

雅座（第二次抒情の前線）

○キャスト

演 出……………山下秀雄
 装 置……………美術部
 照 明……………伊野こういち
 広田智孝
 辻村信太郎
 効 果……………伊野こういち
 衣 裳……………馬橋広之
 協力：馬橋ミチエ
 川井きみ子
 殺 陣……………馬橋広司
 協力：松岡栄志
 牧田吉和

○スタッフ

国定忠治……………清水俊彦
 板割の浅太郎……………村石洋介
 日光の円藏……………鈴木正志
 清水の巖鉄……………次木誠
 高山の定八……………鈴木佳弘
 三津木の文蔵……………岡本修一
 足利の権三……………日内地芳和
 子 分 一……………山中忍
 二……………山下秀光
 〃 官……………新井直人
 代官所侍一……………近藤裕司
 〃 二……………鈴木正志
 捕 方 一……………馬橋広司

池田令子
 西尾久恵
 高山みどり

〃 二……………近藤裕司
 〃 三……………山中忍
 〃 四……………新井直人
 〃 五……………山下秀雄
 川田屋の惣次……………山下秀雄
 語 り……………乞食亭

とにかく、飢饉に乗じて買い占めや年貢取り立てを強化する商人・役人に対し、民百姓の為に立ち上がったのは上方においては大塩、上州においては忠治、このふたりを私は忘れることができない。

近年、上州の名物と言えば赤軍、大久保、紋次郎であるが、その昔はカカア天下と空っ風、それにもう一つ忘れてはならないのは国定忠治の物語りである。

天保八年、飢饉に苦しむ民百姓の為に代官所を襲い、今様に云えば指名手配となって赤城天神山に立て籠り、さらにこの山を捨てて信州へと逃れていく。この話は、その赤城山での最後の夜の出来事である。史書には、後に江戸において商家を襲ったなどと悪人の如くあるが、それも俗に云う体制側の記録なのでその真偽経緯のほどは定かではない。



LOVE FLOWER

'73 Caligula

ANGEL

挿入曲

千歳 元浜 館山寺

Flower Love Angels

Easy Love

Waku Waku

Contents 207m・l

All of you.

瓜子姫とアマンジャック

木下順二作

効 果……………和田 一枝

古橋 三世次

外崎 武之

大沢 由美子

音 楽……………清水 輝雄

佃 田 節子

鈴木 良治

静岡県演劇コンクール参加作品
劇団季節

○キャスト

瓜 子 姫……………杉山 正子

じ つ さ……………増田 和徳

ば っ さ……………大次由美子

アマンジャク……………佃 節子

ソマの権六……………外崎 武之

○スタッフ

演 出……………外崎 武之

照 明……………村松 三男

太田 佳延

古橋 一成

増田 和徳

◇舞台進行にあたって◇

『瓜子姫とアマンジャク』古くからの民話である。これを現代に生かしてみたらどうだろうか。こう考えたのは、ある意味において邪道だったかもしれない。多くの人の反論は予想される。しかし、アマンジャクの実体は何であるのか。また、アマンジャクと瓜子姫とのからみ合をどの様にすればよいのか。と、考えると、演出としては現代に置きかえた方が考えやすくなった。つまり、現代におけるアマンジャクはとてつもなく大きな力であり、瓜子姫は、昔

我々が忘れてきた人間性なのではないだろうか。そのため、アマンジャクの登場には影と音楽をもってそれを表わそうとした。むろん、瓜子姫の持つ民話的な美しさを引き出そうと工夫しました。舞台から我々の若々しさを感じてくだされば幸いです。



黄色いパラソルと

黒いコーモリ傘

別役 実作

静岡県演劇コンクール参加作品

演劇サークル「あし」

○スタッフ

演 出……………今村 咲
舞台監督……………夏目 隆志
照 明……………湯田 典子
効 果……………室 伏 学
衣 裳……………宮本由美子

○キャスト

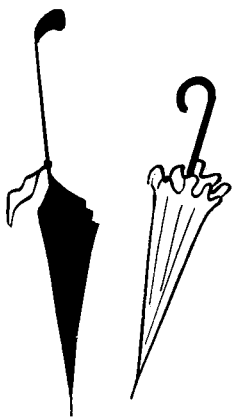
男 一……………内藤 孝義
女 一……………中川 京子
男 二……………乾 章一

女 二……………沼倉 孝江
白衣の男一……………夏目 隆志
〃 二……………梶村 則夫

私たちは、常に、愛に溺れる事を空想している。しかし、愛だけでは物足らず、他の何かをも欲し、面白く、おもしろく、そして楽しく生活を送ろうとしている。これが、レジャーゲームである。しかし、その反面、苦しみや、哀しみ等、私たちに複雑過ぎたり、神秘的であったりして、理解しようとしても、事情がよく分からなかったりするものに直面すると、肩の荷として捕え、悩む。そして、その肩の荷をほぐさんが為に、自分達の過去を振り返り見て、楽しかった事とか、面白かった事とかを再現して、苦・哀等を癒すのである。

ここでは、或る夫婦が、愛を最高なものとして捕え、生活を楽しむべき為に行なっていたゲームがあった。それは、自分達が、昔、恋愛をした事を再現したり、

夫に、又妻に死に別れ、やもめ生活を送る事を現実化したりして、生活を楽しんでいるのである。しかし、そこには、いつも死と直結していて、その中で、愛を確めあうのである。



冬の雷一幕

村越一哲作

静岡県演劇コンクール参加作品

浜松放送劇団(劇団だるま協力)

○スタッフ

演 出……………村越一哲
 舞台監督……………杉山勝義
 装 置……………三井康雄
 齋藤公志
 石川庄治
 西脇章
 松浦光代
 小栗雅史
 中村昂平
 照 明……………

効 果……………金原史枝
 ………………村松 勇
 衣 裳……………坂本 薫
 ………………みつずみはるゑ
 ………………鈴木多見子

○キャスト

高 林……………高林楽器社長・大久保 学
 文 江……………その妻……………斎藤 千春
 よ し……………高林の母……………鈴木せつ子
 原 野……………高林の友人……………古賀 昭隆
 貴 子……………その婚約者……………富田 洋子
 石 田……………高林の叔父……………岡本 和孝
 職 長……………堀田 英夫
 事 務 員……………うさみかよ子
 刑 事……………石橋 純一
 刑 事……………杉山喜代志
 アナウンサー……………村松 勇

(あらすじ)

高林楽器は、今や倒産の危機に直面している。…
 と言うのは、二代目社長である宏が一千万円という
 大金を親友の原野に融通した為、新工場建設と材料
 屋への支払いに振り出した手形が不渡りになってし
 まったからである。

手形が不渡りになった場合、三日目の朝十時三〇分
 迄にその手形を落さなければ銀行取引は停止になり、
 事実上の倒産と相成る。高林家では、半狂乱の母よ
 しと妻の文江が親類、縁者、知人等ありとあらゆる
 方面へ金策に大奮である。その嵐の中で高林は、
 『あいつは必つと帰って来る。北海道の山を売って
 一千万円の金を持って返しに来る。あいつと俺との
 中だ。あいつが俺を裏切る様な事は方に一つもあり
 得ない。あいつは必つと何かの手違いで連絡がとれ
 ないでいるのだ。俺は、あいつを信じている。』と、
 かたくなに言い切る。処が、原野の婚約者である貴
 子が高林を訪れ重大な事実を知らせる。原野の勤め

る太平洋証券浜松支店が公募株の事で摘発され担当
 者の原野の行方を刑事が追っていると言うのである。
 又、叔父の石田はこの事件は商社の乗取りで然かも、
 その陰謀に加担したのが原野であると疑っているの
 である。高林の胸は不安におののく。『まさか……
 まさか……そんな事があるはずがない。……あの
 原野が……そんな馬鹿な……。』打消しても打消し
 ても高林の心には黒い雲が次々と湧き上ってくるの
 である。折も折、そんな高林家を象徴する様に冬に
 は珍しい雷雨が襲来した。その雷を聞くや、よしは
 ヒステリックに叫ぶのであった。『私のお父さんが
 死んだ時も、お前の兄さんの戦死の公報が入った時
 も、今日のように冬だというのに雷が鳴っていた。…
 …うちが悪い事が起る時は必ず鳴り始めるんだ。…
 …そして今も……鳴っている……鳴っている……ああ
 ……高林家も、これでおしまいだ。』

『花 刀』

多田 徹 作

劇団からつかぜ

○キャスト

殿 さん……………水無川 剛
ぬ け 作……………伊 奈 勇
童 子……………登 坂 す み

○スタッフ

劇団からつかぜ舞台美術部
演 出……………みやした公平

都の春、今日は大事な花くらべです。殿さんとぬけ作は花をさがしに東山へやってきました。そこへ格好の枝ぶりの桜を片手に、チマキを食べ食べ小童がやってきます。

殿さん「ほしいのう、あの花が」

ぬけ作「ほしいですねえ、あのチマキが」
さてどうなることやら、ほら、楽しい音楽が聞こえてきましたよ……………。

数多くの児童劇をつくっている多田徹さんのとても楽しく明るい劇です。

以前に小学校や子供会、お祭りにこの劇をやってきました。その時の子供達のいきいきした目が今でも忘れられません。今回は新しい配役で皆さんにお目にかかります。

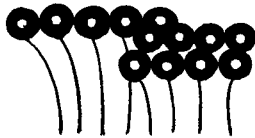
今日の芸術祭では大人や青年の皆さんに児童劇の楽しさを見てほしいと思います。

私達劇団は、十一月に浜松演観協の特別例会として勝山俊介氏の「分裂気質」を再演することができました。地元の労演と協力してこの浜松の地に演劇文化を育ててゆく第一歩を歩み始めたのです。

劇団は来年創立二十周年を迎えることになりました。二十周年を迎えるにあたって私達は、劇団史の編集、

記念レセプション、記念公演等、諸種の計画を立てています。又、日頃演劇に接することの少ない人達の為に小作品を携えて移動公演も考えています。

今、劇団員は三十数名、裏方もやれば役者もやるという具合です。もっともっと団員を増やし、どんな小さな村にでも出かけていって移動公演ができたならなあと考えます。演劇に興味のある方、演劇が好きな方、是非一度いらしてみませんか。



薔薇のベビイ

大和雪彦 作

演劇サークル「鬼の村」

○スタッフ

演出……………森本知子

舞台監督……………川手すみ子

装置……………朝倉トヨ子

〃……………大庭夏代

効果……………加藤憲於

照明……………下石豊美

〃……………秋山奈津代

衣裳……………池田明美

〃……………杉山恵美子

○キャスト

コソ……………中山一夫

ズリ……………山本 誠

チャン……………坪井藤育

いやーまいったよノ、ズリのやつ赤ん坊をしょい
こんで来やがったんだ。

サツへ届ける訳にもいかねえ……。といつてもこの
ままするなんてのは、盗人の仁義に反すらあ。こ
の赤ん坊、いったいどうしたもんかね……。？
脳める3人の盗人、コソ・ズリ・チャン。

